

●水につかった道路を通るときは、こんなことに気をつけよう

水がなく、道路のようすがよくわかる普段の道路を逃げる場合と違い、注意しないと危険なことがたくさんあります。



■はきものは運動靴

長靴は、水かさが深いと水が入って歩きにくくなるため、運動靴が最適です。



■カサや棒で前を確認して

水の中にある危険を、カサや棒などで確かめながら注意して進みましょう。



■水深はヒザの高さまで

歩ける水の深さはヒザの高さまでが限度。流れが速いと20cmの深さでも危険です。

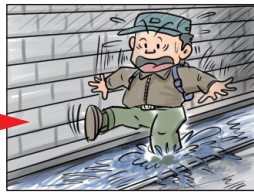
■みんながロープでつながって

水に流されてはぐれないように、子供やお年寄りもロープなどでつながり避難しよう。



●知っていますか、大雨のときは、こんな場所にも思わぬ危険が!

「エッ、こんな場所が」と思うところにも危険が!



道路横の溝などは、水の流れが早くなり危険です。



川の上流では水かさの変化が激しく、中州に取り残される場合があります。



ガケの近くは、水分をふくんだ土砂がくずれ落ちる危険があります。



水かさが増した川にかかる橋は、とても危険です。

地下は、とくに危ないから注意して!



地上が水につかると、地下室へも水が流れ込んできます。



地下が水につかると、電灯が消え、エレベーターも使えません。



水につかった地下では、水圧でドアが開かなくなります。



喚起口や明り取りの窓など、思わぬ場所から水が流れ込んできます。